平成16年度日本痴呆ケア学会読売痴呆ケア賞「奨励賞」

下　村　恵美子
社会福祉法人福岡ひかり福祉会宅老所よりあい・代表
1952（昭和27）年8月15日生

【授賞理由】

下村氏らが全国に先駆け実践した，通って，泊まって，いざとなったら住むことができる小規模で多機能なミニ介護ホーム「宅老所」は，現在，社会において広く受け入れられている．これら一連の活動に対し，本賞を授与するとともに，今後ますますの活躍を期待するものである．

【略　歴】

1971年4月～1979年9月	福岡県信用農業協同組合連合
1980年1月～1982年3月	九州大学（非常勤講師）
1989年4月	仏教大学社会福祉学科卒業
1989年4月～1990年3月	福岡市早寿園デイサービスセンター
1989年4月	社会福祉士取得
1990年4月～1991年9月	特別養護老人ホーム愛信園
1991年11月～現在	宅老所よりあい
2001年4月	介護支援専門員

【業績および功績】

「祖母のぼけの世界」とつき合って，30歳のときに「人間相手の仕事がしたい」と仏教大学社会福祉学科に入学．卒業後，デイサービスセンター，特別養護老人ホームで職員として働き，1991年11月より，宅老所に取り組んできた．

この宅老所「よりあい」は，お寺のお茶室をスタートとし，お年寄りと家族の実情に応じて，できることから取り組んでいるなかで，通って，泊まって，いざとなったら住むことができる小規模で多機能なミニ介護ホームになり，平成15年11月で12年目を迎えた．

「小学校区に1つの宅老所」ができれば，ぼけや障害がたとえ重くても，ぎりぎりまで住み慣れた町でお年寄りの暮らしを支えられるとの思いが，いまでは福岡県内に32か所と広がり，全国にも同じような実践が始まっている．現在は，通って（デイサービス），泊まって（ショートステイ），住むことのできる（グループホーム）宅老所2か所を運営している．

また2002から2003年には，厚生労働省「痴呆高齢者の暮らしを支援する新たな地域ケアサービス体系の構築に関する調査研究」事業に実践者の立場から参加している．

〈主な著書〉

『九八歳の妊娠』（宅老所よりあい物語），雲母書房（2001）
『新・痴呆性高齢者の理解とケア』メディカルレビュー社（2004）